

## 口は健康のもと Vol.134

### 歯科疾患と関連痛 ～早目に歯科医師へ～

ある疾患が原因で、一見その疾患とは無関係に思われる全身のいろいろな領域に生じる痛みを関連痛と言います。

歯科に關係する関連痛は、歯の神経から連関する痛みと、頭部疾患や全身疾患から連関する痛みに分けることができます。

歯の神経と連関する関連痛は歯の神経に炎症が限局している場合に観察されることが多いようです。一般に歯の神経に起こった炎症では痛みの場所を特定することは難しく、患者さんは原因となる歯以外の隣りの歯や上下反対側の顎の歯に痛みを訴えることがあります。そして、歯の神経の炎症と連関して接近する皮膚や深部組織に関連痛が生じる場合があります。歯と連関して痛みを起こす顔面部位として、次のようなものが報告されています。

上顎の前歯が原因歯の場合は、額の部分で、奥歯の場合は上顎および後方の側方部分や耳の部分となります。下顎切歯や犬歯が原因歯の場合は、オトガイ（下あごの先端）部分や下顎枝中央部分、耳や下顎の角部分、喉の上方部分となります。

反対に、頭部疾患や全身疾患が歯に連関痛を引き起こす場合もあります。そのような疾患として、上顎洞炎、筋・筋膜痛症候群、狭心症、心筋梗塞、噴門痙攣症、甲状腺疾患などが報告されています。

心配なことがありましたら、かかりつけの歯科医師にご相談ください。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 教授 木村 裕一